

5. 平成 30 年度の実証的植栽及び生育状況等調査

実証的植栽の目的は、早生樹の利用が期待される地域において早生樹を植栽し、植栽後の生育状況や環境への影響等について調査を行い、得られた結果を評価し、これからの早生樹導入に向けたガイドライン作成に必要な情報を整理するものである。

スギやヒノキ等と違い、この事業で早生樹と目されるセンダン、コウヨウザンは、苗木の確保が課題であるが、センダンについては熊本県樹苗協同組合、コウヨウザンについては広島県樹苗農業協同組合から入手した。

また、実証的植栽地の選定に当たっては、当該事業に理解を示し土地提供等の協力が得られること、苗木運搬・植栽が可能な地域であることを条件にした。センダンについては、早生樹植栽に協力が得られた愛知県豊田市小渡町の民有地の耕作放棄地に設定した。コウヨウザンについては、気候の異なる地域を選定することとし、静岡県小山町の町有林伐採跡地と和歌山県西牟婁郡上富田町の民有林伐採跡地に設定した（表 5-1）。それぞれ概ね 0.5ha 以上の試験地を設定し、試験地内には 2 箇所以上のプロットを設置した。

実証植栽試験の基本的な設計は、センダンでは植栽立地環境の違いによる試験、コウヨウザンでは植栽苗の苗齢の違いによる試験とした。

センダンは前述の実態調査の通りニーズがあり、植栽面積も増加傾向にあるものの、どのような場所が適地かについての知見はまだ少ない。そのため、センダンの植栽地として注目されている耕作放棄地において、①畑跡地、②水田跡地（排水あり）、③水田跡地（排水なし）の 3 区分に分け、さらに③水田跡地（排水なし）については、水田内に植えられた個体と畦上に植えられた個体とを識別し、植栽立地環境の違いによって活着率にどのような違いが出るのかを調査する試験設計とした。

コウヨウザンについては、広島県で造林を推進する方向で各種施策を展開している。現在、コウヨウザン種苗の生産体制を整備中であり、1 年生苗や 2 年生苗の裸苗供給が可能となったところである。この実証的植栽においては、コウヨウザンの苗木の苗齢と、植栽・下刈り等の作業コストの関係や、生育状況とウサギ等による食害との関係を調査する試験設計とした。